

WEEKLY SIGNAL

平成30年12月28(金) 1456号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	1/4 (金)	1/7 (月)	1/8 (火)	1/9 (水)	1/10 (木)	1/11 (金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%			
銀行券	+ 6,100	+ 4,000	+ 4,000	+ 3,000	+ 2,000	+ 2,000
財政他	△ 23,900	△ 1,000	△ 25,000	△ 21,000	△ 1,000	△ 5,000
資金需給	△ 17,800	+ 3,000	△ 21,000	△ 18,000	+ 1,000	△ 3,000
主な要因	国債発行(2年)		法人税・消費税・保険揚げ	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)	国庫短期証券発行・償還(6M)	国債発行(30年)
オペ期日	国債補充供給 + 700		共通担保(全店) △ 1,900			
オペスタート						
(日本)		マネジャーベース(12月) 日銀営業毎旬報告 (12月31日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額			黒田総裁、挨拶(支店長会議) 地域経済報告(1月)	
(海外)	米 失業率(12月) 米 バウエルFRB議長、発言 米 雇用統計(12月) 欧 HICP(12月、速報値)	米 ISM非製造業景況指数(12月)		米 FOMC議事要旨、公表 欧 失業率(11月)	米 新規失業保険申請件数(前週分)	米 CPI(12月) 米 月次財政収支(12月)

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.045 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、389兆8,900億円から始まった。26日には国債買入れ等を主因に390兆円台へ増加したが、その後は財政等要因により減少し、週末となる28日は389兆1,500億円となった。  
無担保コールON物は、先週に引き続きビッドサイドの調達意欲が弱く、軟調な地合となった。同加重平均金利は25~27日まで△0.07%での推移となった。四半期末越えとなる28日は、年末年始を跨ぐポジションを見極めたい動きが顕著になったことから、より弱含む展開となった。前営業日より△0.08%台のビッドが薄く、その水準の取引量が減少したことから、加重平均金利は△0.054%となった。  
ターム物は1月スタートの1~2W物を中心に△0.060~△0.045%で取引が見られた。  
28日の東京債券市場では、世界的な株価下落の懸念を受け、長期金利の指標となる10年物国債の利回りが一時△0.005%に低下した(2017年9月以来1年3か月ぶり)。また、27日に日銀が公表した「当面の長期国債買入れの運営について」では、オファラーの回数・金額が据え置かれた。  
来週は、パウエルFRB議長の発言(4日)、12月のISM非製造業景況指数(7日)などが予定されている。来週以降は、国内では、地域経済報告(10日)、海外では、パウエルFRB議長の発言(4日)、FOMC議事要旨の公表(9日)などが予定されている。

＜オープン市場＞

CP3M(a-1+)	△0.015 ~ 0.000
TDB 3M	△0.20 ~ △0.13
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約2兆8,000億円、週間償還額(約4兆1,000億円)から大幅に減少した。発行市場は、四半期末を意識した残高調整の動きから、期日償還案件が多かった。また、その他金融の大型発行や年初スタートの発行再開もあって、週間を通じてマーケットは活況であった。発行レートは、一部その他金融の大型案件を除き、マイナスから0%近辺のレンジで変わらず、CP等買入オペが25日にオファーされ、按分レート▲0.001%、平均落札レート0.003%と、いずれも前回比で上昇する結果となった。  
来週の償還総額(1/7~1/11)は、8,400億円程度となっている。発行市場は、企業の発行再開や5・10日発行も重なり、活況が予想される。発行レートは、投資家・ディーラーの購入ニーズが引き続き強いことから、マイナス~0%近辺での出合いが中心となろう。CP等買入オペが、10日に2,500億円程度オファーされる予定。

＜TDB＞

今週の国庫短期証券は週を通し開散。  
年末で市場参加者が少なかった事に加えて、入札が実施されなかったこともあり薄商であった。セカンダリー市場は、担保需要が剥落しやや軟調な展開に。新発3M物は週初△0.17%程度で出合いが見られたが、週末は△0.15%まで売りが見られ、マイナス幅を縮小した。  
年明けは1月8日に3M、9日に6Mの入札が予定されている。

＜レポ＞

銘柄先決GC取引は、週初△0.125%~△0.115%で始まった。年末初物の取引となる28日受渡しは、前場△0.10%台半ばからofferが入り始めたが、最終的には△0.12%~△0.11%が出合の中心となった。4日受渡しは△0.10%~△0.095%までレートが上昇した。  
SC取引では10年351回債と352回債のbidが多く、351回債は週初△0.10%台後半、352回債は△0.13%~△0.12%で多く取引された。  
その他2年393・394・395回債、5年135・136・137回債、10年341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年164・165・166回債、30年59・60回債、40年10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではありません。今後予告なく変更されることがあります。